

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	教育施設小委員会	主 査 名：飯野 秋成 就任年月：2003 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境設計運営委員会	委員長名：三浦 昌生 主 査 名：
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	・教育施設における熱・光・空気・音環境の先端研究をリサーチする。 ・教育施設の環境の実態を一般向けに情報発信するための書籍、あるいは教材を作成する。	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無： 無	
	飯野秋成(新潟工科大学) / 塚本健二(新潟工科大学) / 飯野由香利(新潟青陵大学) / 岩下剛(武蔵工業大学) / 生沼哲(電源開発株式会社) / 北山広樹(九州産業大学) / 小林茂雄(武蔵工業大学) / 菅原正則(宮城教育大学) / 高橋央(ベターリビング) / 寺嶋修康(アルコム)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2006 年度予算	130,000 円	ホームページ公開の有無：有 委 員 会 HP ア ド レ ス : http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s2/educationWG/framepage.htm

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 「学校環境設計マニュアル」の書籍化の是非の議論を進めていたが、「学校を科学する」(仮称)という児童・生徒向け教材を作成するという基本方針とすることを決定した。
委員会活動の問題点・課題	1. 委員会の方向性の議論に費やす時間がやや長めとなっている。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。
- * 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2006 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	C
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>今年度の大きな成果として、教育施設の環境に関して各研究者が発信したい「メッセージ」を、1項目1ページとしてドキュメント化したことがある。図表を含む数十ページで構成しており、今後の委員会活動のよりどころとなるもので、利用価値の高いものと考えている。</p> <p>当委員会は当初から、教育施設設計に携わる者を主な対象とした「学校環境設計マニュアル」の作成と、児童・生徒を対象にした環境教育教材の提案、という2つの方針について、可能性を探る議論を重ねてきている。WGの時代より3年を経てようやくの方向性で意思統一がされつつあり、振り返ればやや冗長な議論ではなかったか、との反省から、評価を「C」とした。</p> <p>今後は、「学校を科学する」(仮称)という立場で環境を児童・生徒たちのために解きほぐしていく作業に移る。地球環境委員会傘下の小委員会・WGの活動コンセプトとオーバーラップする部分も出てくる可能性も考えられ、当委員会としての独自性を探りながら具体化することとなる。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。